

農業・食育・教育・農村環境・景観保全

山や川、田や畑、生きている里山を子供達へ

活動の経緯

農家の後継者問題、担い手不足、農道や水路といった施設の老朽化などの諸問題に直面しているなか、農業を将来につなげ、子供たちが誇りを持てる地域にしようと、平成20年度に活動組織を設立し、水路・農道等の維持管理、環境保全活動を始め、良好な地域社会・環境の維持に取り組む。

活動の概要

水路や農道の点検・補修等、生き物調査や、農業体験など、幅広い世代が関わる多彩な活動を実施。



幼稚園と連携したサツマイモの収穫体験



街道沿いに植栽したコスモス

活動の成果、主な実績等

○静岡大学の加藤准教授を講師に招き、小学校と連携して生き物調査及び環境学習を実施。また、幼稚園と連携し、シニアクラブと共に遊休農地を活用してトウモロコシやサツマイモの栽培、米作りを実施。併せて収穫祭などを実施して子供達に一宮の環境のすばらしさや農の営みを伝承。

○構成員が共働で、農地周りに設置した鳥獣害防止柵の下草刈りを実施。

○街道沿いの農地にコスモスを植栽し、地域の観光スポットととするほか、耕作放棄地を再生してふれあい農園として一般に開放。

○当初、220名いた農家の土地を、当該組織が中心になって20戸の担い手に集約。担い手が農業に集中できるよう、土地持ち非農家を中心に草刈りなどの維持活動を実施。